

[ロータリー・アラカルト]

国際ロータリー第2730地区

2016~17年度ガバナー 大重勝弘（指宿RC）

■新入会員の為に

ロータリーに入会して何時まで経っても、なかなかロータリーの事が分からない。ロータリーに関する本を読んでも難しくて解らない。先輩に聞いても「その内に段々と解ってくるよ」と言う。

そのうちロータリーが嫌になって退会してしまう。

これが退会者のパターンである。

ロータリーが解ってくると、ロータリーの良さ、楽しさ、素晴らしさが見えてくる。

ロータリーを解りやすく書いた本がないので、解り易くするために余分な部分は出来るだけ省いて簡潔にした。

■ [ロータリーの誕生]

ロータリーを知る上で、何故ロータリー・クラブが出来たかを知ることが、とても大切な事です。20世紀の初め頃、シカゴの街はゴールドラッシュで著しい経済発展をしていたが、**商業道德の欠如**がひどかった。この風潮に耐えかねた青年弁護士の**ポール・ハリス**は3人の友人と語らって、お互いに信頼の出来る公正な取引をし、仕事上の付き合いが、そのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいという趣旨でロータリー・クラブが出来た。

(1905年2月23日)。従って、当初は「互恵取引」と「親睦」がロータリーの二本柱であった。世界的な大恐慌が起こり、多くの事業所が倒産した。その大不況の中でも順調に業績を伸ばして栄えている幾つかの事業所が目についた。この大不況で多くの事業所が倒産しているにも拘わらず、どうしてこれらの事業所は、順調に業績を伸ばして発展しているのかと疑問を持ったシカゴでビジネス・スクールを経営している、アーサー・フレデリック・シェルドンがこれらの繁栄している事業所を調べたら、いくつかの共通点が見つかった。これがあるから、これらの事業所は繁栄しているのだと判り、そしてその共通するものに「サービス」と名付けた。サービスのない事業所は不景気になると倒産し、サービスのある事業所はどんな不景気になっても倒産しない。それではロータリーもこの「サービス」を取り入れようではないかとなり、以来「互恵取引」「親睦」「サービス」がロータリーの三本柱となった。

■ 「ロータリーを解り難くしている元凶」は

ロータリーの三本柱の1つである「サービス」を日本語の「奉仕」と訳したことにある。

ロータリーの「サービス」とは「思いやりの心を持って、相手の為に一生懸命に尽くす」こと。

日本語の「奉仕」とは意味が違うが、適切な日本語がないので仕方なく「奉仕」と訳している。

これがロータリーを解り難くしている元凶です。

■次にロータリーを「解り難くしている言葉」

ロータリーにとって1番大切な言葉である

「**The Ideal of Service**」を

「**奉仕の理想**」と訳したことです。

ロータリー・クラブに入会して40年になる。その間ロータリー・ソングの「奉仕の理想」を何百回いや何千回歌った事であろう。この大切な言葉が心に響いてこない。その度にノートルダム清心女子大学理事長の渡辺和子さんの本に、街頭で「命を大切に」「命は大切だ」と何回叫んでも、スローガンやステートメントとなって心に響いてこない。それよりも「あなたが大切だ」の一言の方が心に響いて効果がある。という言葉思い出す。

ロータリーにとって最も大切な「奉仕の理想」の言葉が、スローガンやステートメントとなって、心に響かなくなっている。

「奉仕の理想」が解り難いので「奉仕の理念」と変わったが、それでもまだ解り難い。

「**奉仕の心**」と訳すと解り易くなる。

■ [ロータリーの目的]

(これも解り難い)

- ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として「奉仕の理念」を奨励し、これを育むことである。
(これを解り易い文章にすると)

- ロータリーの目的は「**奉仕の心**」を育てること。

The Ideal of Service

■ [ロータリー] とは

ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まり。

■ [ロータリー・クラブの目的]

- 1) ロータリーの目的（**奉仕の心の育成**）を達成するため、五大奉仕部門で、成果ある奉仕プロジェクトを実施する。
- 2) 会員を増強をしてロータリーを発展させる。
- 3) ロータリー財団を支援する。
- 4) 立派なリーダーを育成する。

■ [ロータリーの基本理念]

ロータリーの基本理念は「**親睦**」と「**奉仕**」です。

[A] 親睦には「**感覚的親睦**」と「**精神的親睦**」がある。

- 1) 感覚的親睦は、ゴルフや飲み会など
- 2) 精神的親睦は、会合や奉仕活動を通して精神的な結びつきが出来て、自分の人間性を高めていく。

[B] 奉仕（サービス）には、五大奉仕がある。

- 1) **クラブ奉仕**・・・クラブを良くする
- 2) **職業奉仕**・・・自分の職業を良くする
- 3) **社会奉仕**・・・社会を良くする
- 4) **国際奉仕**・・・国際関係を良くする
- 5) **青少年奉仕**・・・青少年を良くする

○ロータリーの奉仕は

「思いやりの心を持って、相手の為に 一生懸命に尽くすこと」

■ [ロータリアンの三大義務]

- 1) 会費納入
- 2) 例会出席
- 3) 「ロータリーの友」の購読

■ [ロータリーの標語]

[第1標語] Service Above Self [超我の奉仕]

Service not Self・・・フランク・コリンズ

自分たちだけの奉仕であってはいけない。

自分たち以外の人にも奉仕をすべきである

[超我の奉仕] の意味

(下記の文章より意味を推測してください)

- 他人の為に何かをやってあげる
- 世界社会奉仕で1番感動を受けるのは、奉仕をした者である。
- 田中作治RI会長「超我の奉仕」は、単なる標語ではなく、
人生を更に豊かに、有意義なものにする生き方を示している。
- [喜びと悦び] 人にサービスをすると、サービスをされた人が
喜ぶ。そのサービスをされた人が喜ぶ様子を見て、サービス
をした人は更に大きな喜びを得る。

[第2標語]

He Profits Most Who Serves Best **最もよく奉仕する者、最も多く報われる**

[アーサー・F・シェルドン]

「あなたは何の為に仕事をしていますか」
お金を儲けようと思って仕事をすると、その仕事は失敗する。
人に奉仕をしようと思って仕事をすると、その仕事は成功する。

「サービス」は、あらゆる仕事を成功へ導く
ロータリーは「サービス」を学ぶところです。

[入りて学び、出でて奉仕せよ]

- ※) 国際協議会の入り口に書いてある文章です
- ※) ロータリーに入ってサービスを学び
社会に出て奉仕をきなさい

■ [ロータリーのタスキ]

ロータリーに於ける種々の会合で、タスキを掛ける事がある。どちらの肩から掛けても良いものと思い特に意識せずに掛けていた。ある時先輩のロータリアンに注意された。

「左肩から掛けるとロータリーのバッジがタスキで隠れるので、右肩から掛けた方が良い」と言われ、以来右肩から掛けるようにしている。

■ [ロータリーの中核的価値観]

- 1) **Service** (奉仕)
- 2) **Fellowship** (親睦)
- 3) **Diversity** (多様性)
- 4) **Integrity** (高潔性)
- 5) **Leadership** (リーダーシップ)